

第6回総合戦略策定検討委員会

議事要旨

日時：令和3年10月22日（金）
午後6時30分～8時00分
会場：市民ホール

次 第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題
①次期総合戦略における具体的な事業について
- 4 その他
①第7回昭島市総合戦略策定検討委員会について
- 5 閉会

配付資料

【配付資料】

- 1 資料1 総合基本計画 第3章 人口ビジョン/総合戦略の基本目標
- 2 資料2 昭島市総合戦略【実行計画編】
- 3 資料3 基本施策ごとの重要業績評価指標（KPI）
- 4 参考資料 総評（令和元年度）について

出席者（敬称略）

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所）

副委員長・・・永田弘行（立川公共職業安定所）

委員・・・水野宏一（昭島市商工会）、勝見真之（連合多摩中央地区協議会）、北原裕貴（多摩信用金庫）、齋藤久未（株式会社ジェイコム東京 多摩局）、樽松洋（公募市民）、石川くに子（公募市民）、佐藤良絵（公募市民）、

事務局・・・萩原政策担当部長、村山企画政策課長、滝瀬総合基本計画担当課長、萩原企画調整担当係長、森田企画調整担当係長

傍聴者・・・2名

1 開会

事務局・・・ 皆さんこんばんは。本日はお忙しいところ、昭島市総合戦略策定検討委員会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の関係ですが、感染者数が減少してきたこともあり、少し安心感はでてきたと思われます。東京都においては、各種規制の緩和など行われていますが、基本的な対策は引き続き行われることとなり、本日も効率的な進行に努めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。それでは、委員長よりお願いいたします。

2 委員長あいさつ

委員長・・・ 皆さんこんばんは。急に寒くなりましたが、こういう時こそ、体調には気を付けていきたいと思います。事務局の説明にもありましたが、まだまだ新型コロナウイルスの感染のリスクもありますので、効率的に議事を進めていきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは、事務局より本日の資料の説明をお願いします。

事務局・・・ 本日使用する資料につきましては、まず事前に送付させていただいた昭島市総合戦略 実行計画編（資料2）、本日机上配付しております本日の次第、資料1第3章人口ビジョン/総合戦略の基本目標、資料3基本施策ごとの重要業績評価指標（KPI）、参考資料として、総評（令和元年度）についてとなります。こちらの総評につきましては、前回の委員会において、書き方見せ方において、ご意見をいただき、事務局で要約や強調など行い、修正をしております。数字や内容についての変更はありませんので、後程ご確認いただければと思います。また、第5回委員会の議事要旨（案）につきましては、ご覧いただいているかと思いますが、何かお気づきの点などありましたら、発言をお願いいたします。

委員長・・・ 資料はよろしいですか。議事要旨（案）につきまして、何か変更点などありますでしょうか。特になければ、こちらを第5回の議事要旨とさせていただきます。

3 議題

（1）令和元年度総合戦略の総評について

委員長・・・ 次に、本日の次第の3、議題の①次期総合戦略における具体的な事業について、事務局より説明をお願いします。

事務局・・・ それでは、資料に沿って説明をさせていただきますので、まずは資料1の第3章人口ビジョン/総合戦略の基本目標をご用意ください。

総合戦略の策定につきましては、これまで本委員会において、次期総合戦略の基本目標をはじめ、現状、課題、基本的方向などについて検討を重ねてきました。次期総合戦略においては、総合基本計画との整合を図り、一体的・戦略的に施策の展開を図り、より効果的に取組を進めるために、総合基本計画に包含する形で進めております。

こちらの資料2につきましては、先般、パブリックコメントを行いました総合基本計画（素案）の第3章に掲載されている内容となっております。従いまして、こちらが次期の総合戦略の本体部分であり、総合基本計画に包含されている総合戦略となります。なお、総合基本計画の答申につきましては11月を予定しております。

次に、資料2の昭島市総合戦略【実行計画編】をご用意ください。こちらの資料が、総合戦略の各基本目標の達成に向けて、庁内検討委員会を経て重点事業を掲載し、実行計画編として取りまとめたものです。こちらは6ページ以降に第2章施策の展開として、具体的な事業を掲載しております。

施策の展開にあたり、基本目標4は、基本目標1から3の施策を展開するうえでの基盤であることから、基本目標1から3において重点事業を進めていきます。事業選定にあたりましては、5年間の達成状況や事業内容などを振り返って、担

当課との調整を図りながら、基本目標の達成に繋げていくために重点的に取り組む、効果的な事業を選定しております。

K P I については、事業の達成状況や目標値などを再度検証し掲載してありますが、例えば、事業実施回数や参加人数の多寡が効果を図るのに適当でない事業もありました。そのような事業については、実施そのものが重要と考えられるものは掲載し、「事業の実施」、「継続実施」などをK P I として表記しております。なお、現在、基本目標3の子育て支援部門については、妊娠、出産、その後の子育ての各局面で、多様な事業を行っていることから、他のものと比べると、事業数が多くなっております。

このような点を踏まえまして、各基本目標において、各新規事業を中心に説明させていただきます。

はじめに、基本目標1（1）大手・中核企業との連携においては、重点事業としてまちづくり企業サミットの開催をはじめ、合計4つの事業がございます。①まちづくり企業サミットの開催ですが、こちらは今回新規掲載となります。企業連携の施策内容の中ではメインとなる事業であり、市内の大手企業の代表者らによる首脳会議として、4年毎の開催を目標とし定期的に検討会を開催していきます。次に（2）中小事業者や個人事業主の事業継続と事業承継支援の重点事業として、事業承継のほか合計4つの事業があります。④緊急対策事業資金 融資支援事業ですが、こちらは今回新規掲載となります。次に（3）就労者や就労を希望する人の支援の重点事業になりますが、ハローワークとの連携事業のほか合計6つの事業があります。①ハローワークとの連携事業ですが、名称を変えての掲載となりますが、こちらの目標値年間500人と記載がある部分については、最終的な実績確認がとれていなかったため、今後数字の下方修正が入る予定となっております。次に⑥生活困窮者自立相談支援事業ですが、多様な人々の多様な働き方に対する支援策の一つとして記載をしております。

続きまして、基本目標2（1）郷土伝統文化・郷土芸能・芸術の推進における重点事業として、文化財の保存活用事業のほか合計4つの事業があります。①文化財の保存活用事業ですが、こちらは、文化財の保存とともに、デジタルアーカイブ化を図り、ICTを活用しながら情報発信をしていきます。次に（2）昭島ブランド構築・推進における、重点事業については、昭島ブランド構築・推進と深層地下水の保全事業となります。いずれも、既存事業を合わせた事業となっております。次に（3）民間企業と連携した魅力づくりになりますが、こちらの重点事業は、観光まちづくり協会との連携事業のほか合計5つの事業があります。②日本郵便株式会社との連携事業、③栗田工業ラグビー部との連携事業、⑤昭島・昭和の森 武藤順九彫刻園の運営については、いずれも官民における事業連携として今回新規掲載をしております。次に、（4）多様な媒体を活用した情報推進になりますが、重点事業については、①観光マップ作成のほか合計6つの事業となります。⑤メディア等を活用した情報発信ですが、指標は報道依頼や多言語情報サイト（ガイドア）に言及して掲載しております。

続きまして、基本目標3（1）結婚の希望をかなえる環境づくりですが、こちらの施策につきましましては、経済的基盤となる就労環境の整備に向けた支援の充実に努めることから、①ハローワークとの連携事業、②創業支援は、いずれも再掲ですが、重点事業として記載しております。次に、（2）妊娠・出産の希望をかなえる支援になりますが、重点事業は、にんしん・育児SOS相談事業のほか合計4つの事業があります。次に（3）安心して子育てできる環境づくりになりま

すが、重点事業は、①保育所入所待機児童の解消のほか合計 17 の事業があります。② 医療的ケア児保育支援事業ですが、令和 4 年度より医療的ケア児受入れ開始に向けて、現在受入れ体制を整備しているところです。⑩ 教育・発達総合相談（未就学児）ですが、令和 2 年度から開始した事業で、教育部門と福祉部門が一体となって取り組む相談・支援事業です。⑭ 子ども食堂推進事業ですが、令和元年度から開始した事業であり、今回新規掲載になります。目標値の 13 団体というのは、市内の小学校が 13 校あることから、こちらの目標値としております。

以上、ここまでが説明となりますが、資料 3 「基本施策ごとの重要業績評価指標（K P I）」を、本冊子に参考資料として添付する予定でおり、K P I の部分には「目標値」を含め、作成を進めていきます。説明は以上となります。

委員長・・・ ありがとうございます。前回の総合戦略と今回における構成や事業部分の違いは、前は関連する事業を全て並べて掲載していました。今回は重点事業ということで、ある程度絞った形で記述にしていると思います。ことについて、再度事務局より説明をいただけますでしょうか。

事務局・・・ 現計画では、多くの既存事業を載せていましたが、就労、魅力の発信、子育ての部分に特化することとし、庁内関係部署と検討を行い精査した中で事業選定をしました。基本目標 4 については、今回は総合基本計画において総合的に取り組んでいくこととしており、また各基本目標の基盤であるため事業掲載はしていません。基本目標 1 から 3 において集中的に事業展開をすることとしているため、このような重点事業数となっています。

事務局・・・ 前回の総合戦略の策定にあっては、国の要請を受けて補正予算での対応となりました。また、第五次総合基本計画が進行している中で、人口減少・超高齢社会の構造的課題の克服に向けた取組を戦略的に展開する計画として策定するということから、既存の事業の中で、各基本目標に関連する事業を拾い集めた形で、政策指標を達成できるよう全ての事業を掲載してきました。今回は新たな総合基本計画と策定期間を同時期としたことで、より一体的に施策展開できるように、総合基本計画の中に包含する形で位置づけました。そうしたことで、基本目標 4 に掲げていた人と人の繋がりや水と緑の基盤を大切にしながらという土台となる部分は、総合基本計画の大きなまちづくりの中で進めていくうえで、基本目標 1 から 3 の人口減少に特化した部分を展開していくと視点を変えました。そうした中で、基本目標 3 については子育て環境や安心して子どもを預けられる環境の整備など、この部分については重点的に取り組んできた成果もあります。そうしたことから、他の基本目標と比べると、事業の比重が多くなっている部分はあります。また、雇用の関係では、市だけの取組ではできないこともあり、市内企業との連携が中心になってくるため、そういうところにポイントを置きながら、それぞれの政策指標達成に向けて、直結すると思われる部分を内部検証し、ここに掲載させていただきました。

委員長・・・ 総合戦略というのは、人口減少を克服するための計画として、そこに寄与する重要な事業を選定して記載しています。この事業が人口減少の緩和に寄与するのか、目標値がこれでいいか、という視点で再度皆さんに見ていただきご意見をい

ただければと思います。

水野委員・・・ 資料1の昭島市総合戦略実行計画編は、実際に計画に載るものなのか、それとも委員会だけの資料になるのでしょうか。

事務局・・・ こちらは、総合基本計画の総合戦略部分の目標達成に向けて、総合基本計画でいう実施計画のアクションプランのような位置づけであり、別冊で作成予定であります。仮称で実行計画編としていますが、ここにより具体的な事業の展開を記載させていただき、KPIをもって評価検証をしていく方向で考えております。第1章の書き込みについては、実行計画編の位置付けということで記載をさせていただいています。総合基本計画の本体に書かれている人口ビジョンの目指すべき将来展望など、それを達成するための総合戦略における4つの目標も記載させていただいております。実行計画の基本的な考えの(1)実行計画の位置付けに、総合基本計画に包含している総合戦略の政策指標達成に向けて、より具体的に展開していくための事業を集約して記載をしています。

水野委員・・・ P3では基本目標4が4つの目標の中心になる図として、とてもわかりやすいです。P4では、基本目標4の住み続けられるまちをつくるためには、基本目標1から3の施策を展開していくということですね。P5ですが、SDGsについては市民の目線で考えると、あと1ページ追加をして1から17の目標についての説明があるとわかりやすいのではないかと思います。

事務局・・・ 総合基本計画にも1つの目標ごとに、解説を入れているので、総合戦略においても同じように対応をさせていただきます。

樽松委員・・・ 昭島市総合戦略実行計画編をいただいた時に、基本目標などもう一度内容を見直すのかなと思いましたが、基本目標は同じで事業の目標とかを検討するというところでよろしいのでしょうか。

委員長・・・ そうですね。基本目標についてはこれまでも議論を重ね、また総合基本計画では既にパブリックコメントにかけておりますので、ある程度確定ということになります。その実行計画である具体的な事業については、ご意見を伺える状況ということになります。

樽松委員・・・ わかりました。基本目標1、2はこれでいいかなと思いましたが、基本目標3のところでは、市民の暮らしを豊かにするというような項目を加えて作成したほうがいいのかと思いました。5年経つとデジタル化がさらに進み、例えばワクチン接種の予約をはじめスマホで行うことが多くなり、年寄りはいまうまく対応できず、孫とかにやってもらったりとか。なので、デジタル化への対応やペーパーレス化を含め、一般市民をどうするのかという視点があってもいいのかなと思いましたが、訪れてみたい、住んでみたい、住み続けたいまちにするには、みんなが協力しなければできないのかなと。そのような項目を追加してもいいのかなと思いましたが。

事務局・・・ 総合基本計画の中に、誰もが豊かに暮らせるようになるという視点も持ちながら、デジタルトランスフォーメーションについての記載もあります。市の最上

位計画である総合基本計画にある施策の中から、総合戦略では特に人口減少・超高齢社会の構造的課題の克服に向けた取組を戦略的に展開をしていくということで、今回はその部分に特化した計画になっています。

委員長・・・ 委員が仰った部分については、総合基本計画の中に記載はあります。総合戦略では人が減ってしまうということに対する計画のイメージです。人を呼び寄せるだけでなく、住んでいる人たちが協力し合って生活していく、一人残さず高齢者も対応できるような計画でないといけないというのは、その通りだと思います。なので、総合基本計画と総合戦略合わせて一体的に対応を図っているということで、総合戦略では人口減少に特化したものという目線で各事業を見てもらえればと思います。

永田委員・・・ P11ハローワークとの連携事業における目標値の下方修正についてですが、資料3では、人数が減少してしまっているが、昨年の緊急事態宣言により、2か月間、就職情報室が閉庁となった影響もあるかと思います。今はどうかというと、平成30年の時ほど状態は戻っていません。現在はできるだけ人を来させない非接触型の取組となっており、就職情報室の利用者が減ってきています。数字については、産業活性課と調整のうえ、報告をさせていただきたいと思います。また、昭島市民の就職件数が減少したかについては、10%程度の減少に留まっています。就職情報室の利用者は減りましたが、昭島市民がハローワークを活用した利用率はそこまでは下がっていません。

委員長・・・ K P Iを設定すると、その数値をもって評価をすることになります。目標値を含めK P Iが本当に適切なのか、評価の指標になるのか。例えば、非接触型の相談が増えてきますが、そもそも来所者数というのが評価の対象になるのかという部分はあります。ただ、それをわかったうえで、評価をするとすると、評価の仕方も全然変わってきます。そのあたりについては、事務局としての見解はどうかでしょうか。

事務局・・・ 就職情報室の利用者数の部分だけではなく、市のイベントも縮小、中止をしているところがほとんどです。令和2、3年度は、実績が今までと変わってしまいました。今後については、アフターコロナ、ウィズコロナと言われている中で、新しい生活様式に対応していかななくてはならず、これまで通り多くの人が参加をすれば良いという評価では難しいと捉えています。そうした中で、例えば、子育ての相談窓口を行っているところでは、専門職を配置しているので相談件数を捉えていました。しかし、今後もセーフティネットの窓口を置くこと、事業継続していくことが最終的な政策指標の達成に繋がるという捉え方により、目標値は人数から、実施や継続実施と指標変更しています。ただ、イベント事業などより多くの人に見てもらいたいものは、一時的に会場に集めるのではなく、文化芸術の鑑賞のように一定期間内に、密にならないように自由に見ていただくようにするのも一つの方法であると思いますので、庁内で本当に指標の数字がそれで良いのか検討を踏まえて、修正を加えさせていただきました。

委員長・・・ このようにみると、K P Iの目標の見え方が違って見えるかなと思います。今のようなご指摘をいただくことで、評価する際の留意点も見えてくるとと思います。

齋藤委員・・・ 実行計画編P19のインスタグラムの数、ふるさと納税者数について、目標値が実績よりも低い数値となっているので、その理由を教えてください。

事務局・・・ インスタグラムは、上の表の部分の数字が、そのまま下に入っているため修正させていただきます。また、ふるさと納税については、クラウドファンディングによる件数が、令和元、2年度には入ってカウントされているため、修正させていただき、今後、目標値と整合が取れるよう整理をしていきたい。

齋藤委員・・・ ふるさと納税の充実というところは、具体的に何を行うか示した方が良いのではと思いました。その方が、目標値に向かってこの事業をやったから、これだけ数字が伸びたとわかる。また、大企業との連携を進めるとあり、今の返礼品のラインナップもそこまで多くはないので、独自の返礼品がある方が注目を集めて、件数を増やすことに繋がるのかなと思いました。

P20の報道依頼件数では、何件依頼をして、何件取り上げられたかの指標が好ましく、依頼を出すだけでは、効果が薄いのではないかなと感じました。どうやったら取り上げられるかという視点により、事業も充実してくると思います。

事務局・・・ 報道依頼件数については、報道依頼によって得られたアウトカムの部分を含め、報道件数などの指標の可否について担当課と調整を図りたいと思います。

ふるさと納税の充実については、市内企業のPRになるようなものを発掘し、ふるさと納税の返礼品として進めていくよう考えているので、具体的な事業の書きぶりは検討をさせていただきます。

北原委員・・・ 評価のところになりますが、1. 実行計画の基本的な考え (3) 客観的な指標と効果検証の実施に部分について、データ等による効果検証を行いと記載がありますが、今の想定としてはどのようにデータを使って、検証していくのか教えてください。

事務局・・・ KPIを各事業に設定しており、資料3で基本目標ごとに設定した基本施策、事業のKPIを平成30年から3年間記載しています。こちらを経年で、データとして取りモニタリングしていく中で、達成、未達成を見て、チェックをしていきます。そして、その事業が基本目標を達成するために必要な事業なのか、また効果的な事業なのかを検討する中で、PDCAサイクルを回していくと考えております。

北原委員・・・ 国の方で、EBPMの考え方に基づいた政策立案が求められていますが、ここに記載のKPIだけだと、そのようなことが計り切れないのではないかと思います。例えば、ネットワーク加盟事業者数や創業者数などの、もう少し深掘りした属性や、踏み込んだデータのとり方や活用の方法が求められているのかなという点。また、事業内容とKPIの記載しかないが、こういった成果をアウトプットから、アウトカムに繋げていくのかというのは記載できないのでしょうか。

委員長・・・ 例えば、まちづくり企業サミットの開催をやることで、どういう因果関係で、結果が出てくるのか効果が生じるのかという意味合いですよね。

事務局・・・一つひとつの事業について、どういう事業効果があって、今後発展的にそれぞれの取組が進んでいくのかというところを明確に示した方が良いという意味だと思います。これまでの総合戦略における事業については、国の交付金を活用しながら行っていくという部分では、北原委員言われたように一つひとつの事業で、5年間で段階を踏んで最終目標を決めて向かっていくのかは、事業計画をつくることになっています。今回の総合戦略においては、一つひとつの事業でそこまで位置付けして行っていくのは難しいと考えています。最終的には、それぞれの基本目標に掲げた政策指標を達成するために、いくつか事業展開をしていく中で、それぞれの事業としてはハードルを越えていきましょうという目標設定をさせていただいているのがK P Iと捉えていますが、事業内容の詳細がもう少しわかるような何を狙っているのか、取組の方向性については、もう少し工夫を重ねていきたいので、よろしくお願いいたします。

齋藤委員・・・コロナ禍では人を集めるのが難しいというお話がありました。それに対して、イベントにおいて人を何人集めるという目標がありましたが、これに対して、実イベントを開催できなかった時の、代替案というのが併記されていると良いのかと思います。リモートでできる工場見学等あったりするので、そういうのも取り入れて行うのも良いのではないかと思います。

委員長・・・コロナの感染状況によっては、指標自体があまり意味のないものになってしまう。そんな時にそれに代わるような指標であったりとか、評価基準がもしあれば、それを踏まえて改めて評価する、ということも可能だと思います。K P Iだけ見て、達成できた、出来ていないだけの単純な評価にはならないということもあると思います。私たちも、コロナにおける評価の部分に非常に悩んだ部分もあります。もしかしたら、事前にここへ組み込んでおいた方が、後々の検証・評価という部分で進めやすいのかもしれないかもしれませんが、そのあたりはいかがでしょうか。

事務局・・・確かに令和元、2年度においては、かなりの事業が中止となり、その評価をどう捉えたら良いかという部分はありました。その部分について、今後コロナの影響がどの程度影響してくるかわからない中で、全ての事業において予めの代替案が良いか、それとも事業を推進しながらの検証・評価の時点での検討が良いのかについては、事務局で少し検討をしてみたいと思います。

委員長・・・場合によっては、例えば、企業見学ツアーが出来なくなった時に、ここは地元企業のP R支援になり、本質は地元企業のP Rが出来ていれば良い。そのための指標として、例えば見学ツアーが出来ていなくても、メディアで取り上げられたとか、他の指標でそれを評価できることは出てきそうな気がします。事業間の繋がりであったり、K P Iの繋がりみたいなものをある程度理解し、それを総合的に判断する方法を含めて、精査していくのが良いのかなと思います。

水野委員・・・商工会としても企業が元気で活力ある事業を行っていくのが望ましいことでありまして、この地元企業P R事業という視点で言うと、前にも委員会で述べさせていただいたかと思いますが、多摩大学の学生さんが、地元の企業を取材して企業の魅力を導き出す事業もあります。そういった学生さんが企業を見学すると、

従業員さんが自身の会社の魅力を説明することによって、自分の働いている会社がこんなに良いのだと再発見する機会にもなっているようです。雇用力向上に繋がると記載がありまして、多摩大学の学生さんが企業を見学することによって、昭島にこのような企業があるということを発見いただいて、雇用にも繋がる可能性があります。委員長のお話にもありましたが、見学ツアーだけにするのか、表現をどうするのかというのも検討いただければと思います。

佐藤委員・・・ 市民の意見が良くまとまっているなと思いました。北原委員が仰ったアウトプット、アウトカムについては、事業を行う際は必ず提出をするものなので、アウトカムについてはとても大切であると思いました。

齋藤委員が仰っていたフォロワー数の件については、昭島市はフェイスブックはあるのでしょうか。昭島市民の方でフェイスブックをやっている人のグループに私も招待されて入っていますが、たった一人の市民の方のフェイスブックに1,413人も入っていますので、フェイスブックを行えば、各世代幅広く情報共有ができるのではないのかと思いました。

P R企業、大学生が魅力を発信してくれるという先程水野委員が仰っていたことについては、とても良い取組だと思いました。私のN P O法人も、今都立大学の学生さんがインタビューに来てくれているので、大学生のコラボというのを発信していただくのに大切だなと思いました。

委員長・・・ 多摩大学も協定を結ばせていただいたというのは、昭島市には大学がないということもあり、市外の大学と連携して若い人の力になるべく昭島市に関わっていくというのが、少し遠回りかもしれませんが、人口減少にもプラスに働く可能性があるのかなと思います。多摩大学の学生で、「あきしま」って聞くと「どこの島ですか？」って言っていたのが、こういう市があると知っていただくだけでも、その先の可能性が広がるため、なるべく若い人が関わるような機会を作っていくというのが、戦略的には非常に大事であるように思います。

委員長・・・ 今回、基本目標に横断的な視点がプラスされています。これは、ある特定の部分に関わっているのではなく、全体に関わってくるものと思われますが、このあたりの横断的な視点というのは、今回の事業選定や事業の組み立て段階で、何か生かされているのか。生かされているとしたら、どのあたりなのでしょう。

多様な人材の活躍では人材に着目したりとか、新しい時代の流れならITとか、そのような話だと思いますが、何より昭島の水というのは、昭島ブランドとして昭島としてはプラスになる話だと思いますが、そういうことを意識して組み立てるという点についてはいかがでしょうか。

事務局・・・ 事業展開については、3つの視点というのは持ちながら取り組む前提には立っています。特に昭島市の特徴では、水と緑の部分となります。これからのまちづくりについても、多様性を大事にしながら、意外性を生んでいこうという楽しいまちを目指しているというところから、大きくは基本目標4の基盤の部分に含まれる部分かなと思います。基本目標1から3の中では、昭島ブランド構築・推進の部分で特に水を取り上げて、P R活用だけでなく、地下水の保全という部分の視点を持ったところもあります。また、P20のメディア等活用した部分については、デジタル化も十分に念頭に置きながら、どのような対応ができるかというの

も視点の一つとして持っているというところです。

委員長・・・ そういうふうに組み立てる時に、考慮されている部分もあるでしょうし、今後動かしていくときに、是非意識してもらいたいというところがあります。企業PR支援事業では人材というところに着目したPRの仕方をするとか、実施の方法もDXということで考えるとITを活用したもので、オンラインで行うという話であるとか、そういうふうに特徴づけができるはずですが、せっかく横断的な視点というのを設定したわけなので、事業実施とか計画とか、そういうところで意識した形で、それぞれがやっていただけると、より今回の計画が、特徴づけられるというふうに思いますので、是非お願いできればと思います。

石川委員・・・ P22の重点事業に、4つの事業が書かれていますが、親自身が自らここで育てているという実感のあるまちであってほしいと思っています。何かしてもらうのではなく、親同士が繋がり合うのをサポートするという部分があまりないような気がします。私が行っている、BPプログラムという2か月から5か月の赤ちゃんのお母さん同士をつなげるというプログラムですとか、ピアサポートとよく言われています。この前伺った時に子育て広場をやっていますということでしたが、子育て広場でも保育士さんたちに相談する場所が主になっていて、親同士を繋げようという意識があまりないなというのがあったので、これからの昭島市での事業の中で、親同士を繋げていこう、あなたたちが主役ですというところを大事にした事業をやっていただけたらなと思いました。

事務局・・・ これまで取り組んできた事業の中でも、そこに参加した参加者同士がネットワークを組んで、しばらく活動を行っているという話も伺っています。また、親同士を結びつけることに特化した事業というのはなかなか展開が難しいとは思いますが、例えば、フレッシュママパパ学級など、そういった活動の中でも交流が生まれて、少数ではあるが繋がりを持っていくとか。男女共同参画プランの策定委員にいらした方が、父親を中心とした子育てサークルとかで活動しながら、だんだんネットワークが広がっていくとかありますので、活動支援などを含めながら展開していく必要があるかと思っています。市で行う、それぞれの目的を持った事業がきっかけとなり、そこに集まった対象の方たちが、横の繋がりをもっていたけると、市としては嬉しいことと思っています。

委員長・・・ 子育てだけでなく、シニアの方が何かを学んでそこで出会った人同士が繋がって、そこで自分たちで何かをはじめるみたいなことも、例としてあるとは思いますが、おそらくこういった行政が行う事業で、出会った人たちが何か一緒にやったりとか、じゃあ自分たちで何とかしようよという動きが出てきたときに、それを支援する制度みたいなみたいなものは、あったほうが良いと思います。直接親と親と繋げる事業自体があるかもしれませんが、民間で働いている人を応援するようなのもあっていいかなというふうに思いますね。

勝見委員・・・ P19 インスタグラムのフォロワー数は、今年度の7月15日にはじまって、現在フォロワー数が912人、投稿数が71投稿。最近では、共同調理場の写真が多くなってきていましたが、そこも内容を充実してもらって、メニューだけでなく何か一品の作り方とか、さらに掘り下げた投稿の仕方をしていただけると、読み応え

があるのかと思います。また、色んな人に声をかけていただき幅広い投稿層になると、内容も幅広いものになるので、ご検討いただければと思います。

P27 リーダーズクラブについては、コロナ禍新たな生活様式という中で、講習会の実施も非常に厳しくなってくる、やり方も検討する必要があるのかなと思いますが、やり方など検討をしていただきながら、講習会の参加者数、小学生 1,800 人、中学生 20 人については、維持できるように所管課と相談していただければなと思いました。

委員長・・・ このような、子どもや若者の講習会やイベントというのは、オンライン化はあまりされていないのですか。

勝見委員・・・ 企画の作り方は、オンラインでできるが、レクリエーションはどうしても対面の大人数で輪になってというのが主体になっているので、レクリエーションの方は、オンラインでというのは厳しいのかなと思います。

委員長・・・ やることの内容によって、オンライン化が難しいものもあるので、そこは数は増えないかもしれませんが、逆にオンライン化できるものについては行っていく方向なのかなと思います。

委員長・・・ 他に意見などがありますでしょうか。特にないようでしたら、こちらの議題については以上としたいと思います。

4 その他

①第7回昭島市総合戦略策定検討委員会について

委員長・・・ それでは、その他の次回の委員会開催について、事務局から説明をお願いします。

事務局・・・ 次回の委員会の開催は、12月を予定しております。時間は、午後6時30分から、場所は、市役所市民ホールを予定しております。また日程が決まりましたら、開催通知等を送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。

5 閉会

委員長・・・ 委員の方から、何かありますでしょうか。皆さまのご協力のおかげで効率よく議事の進行できまして、ありがとうございました。以上で、第6回総合戦略策定検討委員会を終了したいと思います、お疲れ様でした。